

焼岳の火山活動解説資料（平成 26 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
平成 23 年 3 月 31 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報事項に変更はありません。

活動概況

- ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 2）
北陸地方整備局が設置している焼岳北カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは 80m 以下で経過しました。また、同局設置の焼岳南西斜面カメラ（焼岳の西南西約 2.5 km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは 50m 以下で経過しました。その他の地域で噴気は認められませんでした。
- ・地震活動（図 3 - 、図 4）
焼岳を震源とする火山性地震の発生回数は少ない状態で、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。
- ・地殻変動の状況（図 1、図 3 - ~ ）
GNSS¹⁾ 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。
1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

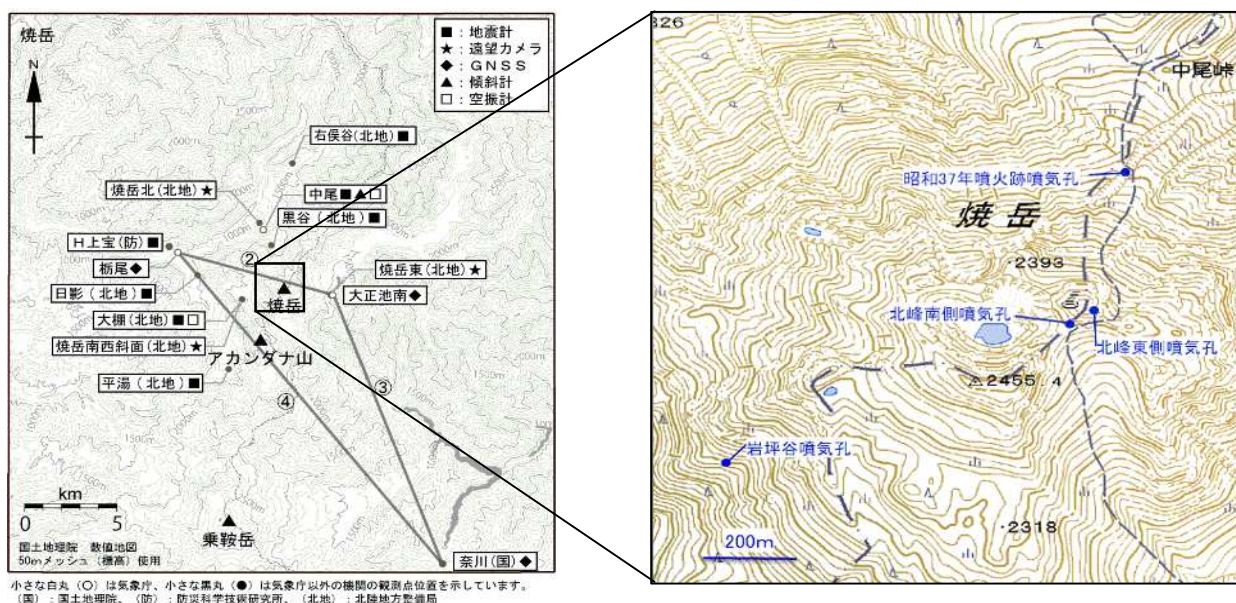


図 1 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置
GNSS 基線 ~ は図 3 の ~ に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 8 月分）は平成 26 年 9 月 8 日に発表する予定です。
この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び独立行政法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。
資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。



図 2 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況

(左図: 7 月 29 日 焼岳北カメラ、右図: 7 月 29 日 焼岳南西斜面カメラ)

【計数基準の変遷】開 始	2010 年 8 月 2 日 ~ 2010 年 9 月 21 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 2 秒以内
変 更	2010 年 9 月 22 日 ~ 2011 年 3 月 10 日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内
変 更	2011 年 3 月 11 日 ~ 2013 年 9 月 30 日	中尾振幅 3.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内
変 更	2013 年 10 月 1 日 ~	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S - P 1 秒以内

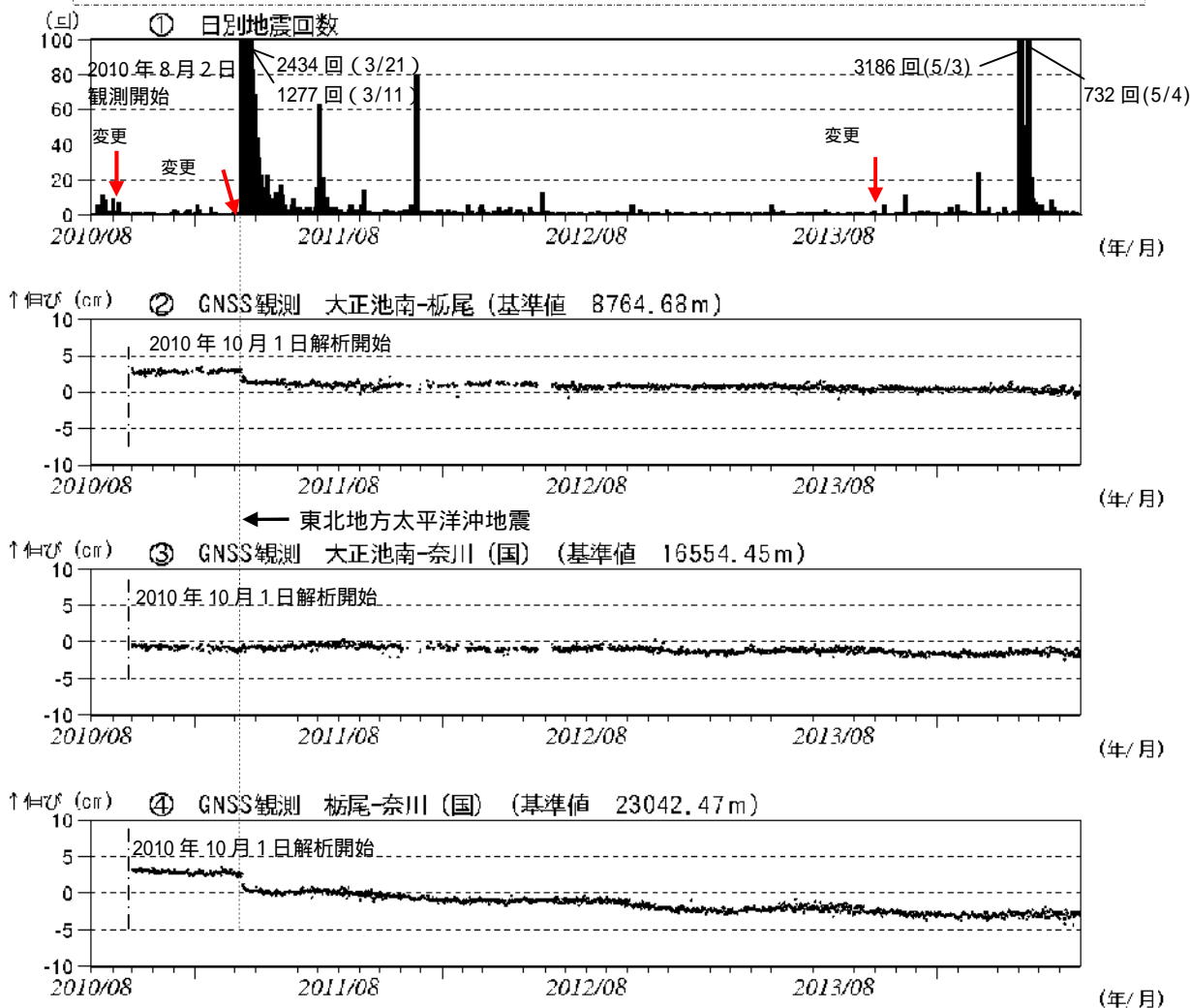


図 3 焼岳 火山活動経過図 (2010年 8 月 2 日 ~ 2014年 7 月 31 日)

焼岳周辺の日別地震回数

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。5 月に活発化した地震活動も低下しています。

~ GNSS 連続観測による基線長変化 (国): 国土地理院

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、データに飛びがみられます。

~ は図 1 の ~ に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

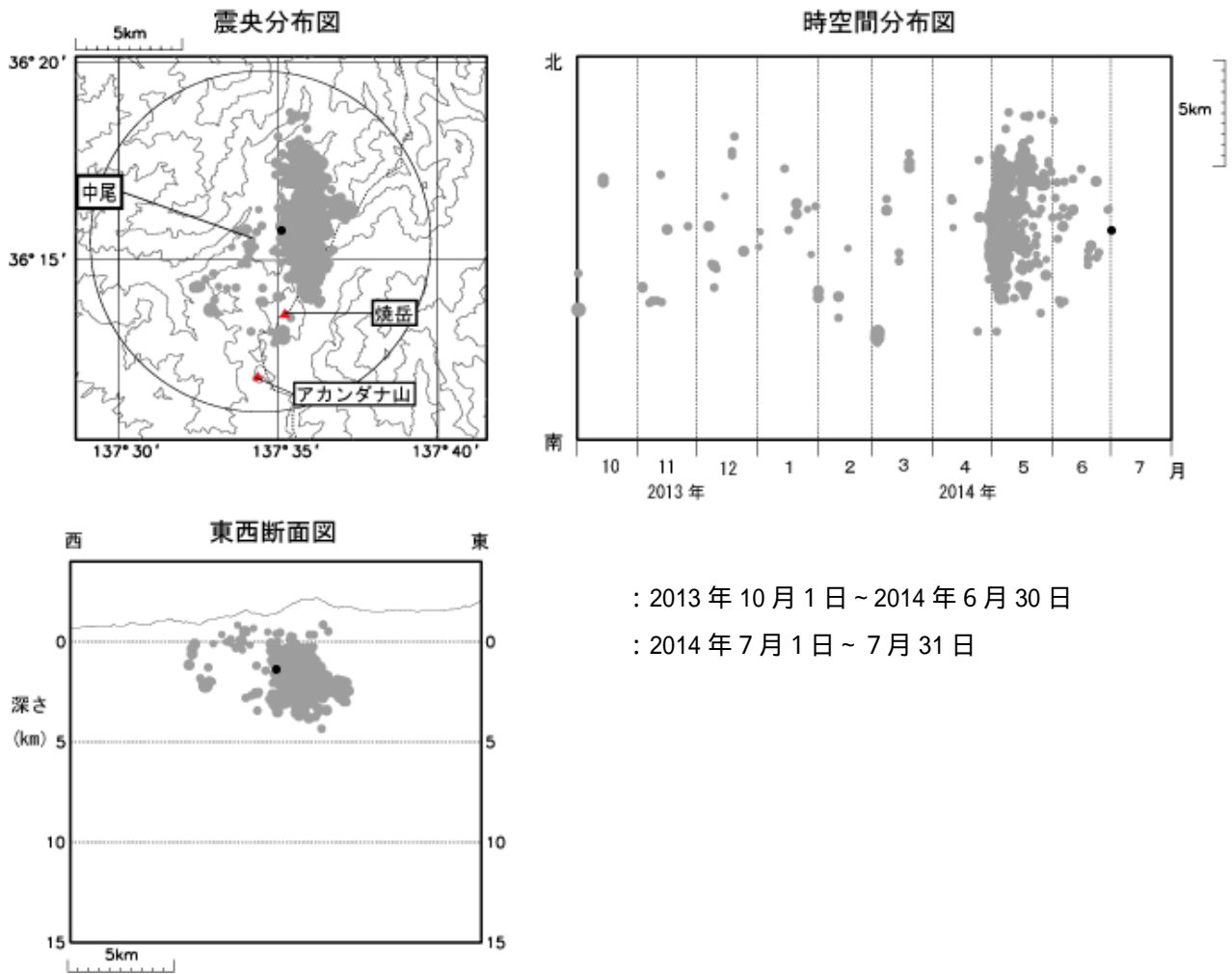


図 4 焼岳 震源分布図（2013 年 10 月 1 日～2014 年 7 月 31 日）
 震央分布図中の円は図 3 - の計数対象地震（中尾で S - P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示します。